口演57

医療政策・看護政策2

座長：小山田 恭子（聖路加国際大学）

2024年12月8日(日) 11:00 ~ 11:40 第7会場（熊本城ホール3F 中会議室C1-2）

[057-02]高度急性期病院における医師からジェネラリスト看護師へのタスク・シフトと療養上の世話との関係

○樋口 佳耶¹、高木 廣文¹、林 千冬¹（1. 神戸市看護大学）

【抄録】

【目的】高度急性期病院の一般病棟におけるタスク・シフトの進行状況と療養上の世話の実施状況との関係を明らかにした。

【方法】高度急性期病院の一般病棟に勤務する看護師を対象とし、無記名自記式質問紙調査を行った。質問紙は先行研究等を参考に作成し、基本的属性、タスク・シフトの進行状況、療養上の世話の実施状況の3つから構成した。分析は、記述統計量、主成分分析、Kruskal-Wallis検定等を行った。統計解析には SPSS ver26を用い、有意水準は5%とした。データ収集期間は2023年10月～2024年1月であった。

【倫理的配慮】神戸市看護大学研究倫理審査委員会の審査で承認の後、学長の研究実施許可を得て研究を実施した（承認番号23212-09）。

【結果】調査への同意が得られた36施設に1,036部の質問紙を配布し、422件の回答が得られた（回収率：40.7%）。うち2件は、対象ではない者からの回答であったため除外し、420件を分析対象とした（有効回答率：99.5%）。相対的医行為の医師との分担状況は、設置主体や特定行為研修修了生（以下、修了生）の配置との間で有意な関連が認められた。修了生の配置がない病棟のほうが、配置がある病棟よりも、看護師が中心となって相対的医行為を行っていた。設置主体と療養上の世話の実施の程度との間で有意な関連が認められ、医師が中心となって相対的医行為を行っている病棟のほうが、看護師が中心となって行っている病棟よりも、看護師が療養上の世話を十分に行っていると認識していた。相対的医行為の医師との分担状況は、療養上の世話の実施状況のうち、清拭の方法との間でのみ有意な関連が認められた。看護師が中心となって相対的医行為を行っている病棟ほど、「ディスポのおしぼり」を用いて清拭を行っていた。清拭の方法は、設置主体や療養上の世話の看護補助者との分担状況の間でも有意な関連が認められた。療養上の世話を看護補助者が関与している病棟ほど、「ディスポのおしぼり」を用いて清拭を行っていた。

【考察・結論】タスク・シフトのあり方には、①医師から看護師へ、②医師から修了生という「一部の看護師」へという、2つのパターンがあり、①のタスク・シフトが進行している病棟ほど、ディスポーザブル不織布を用いて清拭を行っていると考えられた。タスク・シフトや看護業務の効率化が推進され、看護業務が見直される中で、ディスポーザブル不織布が導入されたり、療養上の世話の看護補助者への委譲が進められたりしていると考えられた。このような状況については、現場で働く看護師から、看護サービスの質を維持することが困難ではないかという不安が示されている（北川ら、2023）。②のタスク・シフトが行われている病棟では、修了生以外の看護師への相対的医行為の委譲が行われにくく、その分、修了生以外の看護師が、療養上の世話に専念しやすいのではないかと考えられた。本研究は JSPS科研費 JP24K13656の助成を受けた。